2013 年度 小委員会活動成果報告

（2013 年 12 月 21 日作成）

小委員会名	大学・地域デザイン小委員会	**主 査 名**：上野　武 **就任年月**：20 13 年　　月
所属本委員会 （所属運営委員会）	都市計画委員会	**委員長名**：出口　敦 **主 査 名**：
設　置　期　間	2013 年　4 月　　～　　2017 年　3 月	
設　置　目　的 各年度活動計画 （箇条書き）	持続可能な都市や地域を形成するために、都市や地域の資産として大学キャンパスや大学が有する物的・非物的資源を活かした地域再生の方策を明らかにするとともに、都市の縮図としての大学キャンパスの新たな時代を見据えた創造的再生と、それらを新たな都市・地域のデザイン手法に展開する方法論を明らかにすることを目的とする。 　大学・地域デザイン小委員会では、設置目的の達成に向け、主たる３つのテーマに取り組むワーキンググループを下部組織として設置し、各年度において、個別あるいは合同での効果的な活動を実施する。 **初年度：**活動体制の構築、関係資料の収集および勉強会の定期的実施、機動的 WG による研究内容の深化、関係海外ネットワークからの情報収集と参加、オーガナイズドセッションの企画、他小委員会との連携研究活動の実施など。 **２年度：**WG による成果発表会（中間報告１）の企画・開催、事例調査とヒアリング、海外ネットワークの構築、オーガナイズドセッションの企画など。 **３年度：**WG による成果発表（中間報告２）、海外ネットワークへの情報発信、オーガナイズドセッション OS の企画／研究集会の企画、提言書の作成など。 ４年度：４年間の活動を取りまとめた書籍の出版計画の立案し、年度内の出版を目指すとともにシンポジウムの企画・実施を行なう。	
委員構成 （委員名（所属））	**委員公募の有無**：有 上野武（千葉大学）、鶴崎直樹（九州大学）、斎尾直子（東京工業大学）、小篠隆生（北海道大学）、小松尚（名古屋大学）、 倉田直道（工学院大学）、坂井猛（九州大学）、遠藤新（工学院大）、笠原隆（文部科学省）、土田寛（東京電機大学）、恒川和久（名古屋大学）、鄭太景（驪州大学・韓国）、武田史朗（立命館大学）、古暮和歌子（東京芸術大学）	
設置 WG （WG 名：目的）	**1）サステイナブルキャンパスＷＧ：**海外ネットワークとの連携（ISCN 大会、ASSHE 大会への参加）、情報収集と発信、サステイナブルキャンパス推進協議会設立準備会議を運営、サステイナブルキャンパスの評価方法の検討を行なう。 **２）地域再生と大学ＷＧ：**地域・大学連携の内容、空間スケール、地域の性格、などのスペクトルを一度包括的に整理しながら、地方都市・地域における大学・キャンパスの役割を、現地調査とともに検討する。また、現在の地域と大学の連携による地域再生戦略に向けた、全国の自治体・大学へのアンケートを実施し、分析する。 **３）キャンパスデザインＷＧ：**一団の土地としての大学キャンパスに関する検討（キャンパス空間構成の分析）および都市的な空間としての大学キャンパスに関する検討（フリンジ空間の分析等）を行なう。	
2013 年度予算	200,000 円	**ホームページ公開の有無**：有 **委員会 HP アドレス**：http://news-sv.aij.or.jp/toshi/s1/campus/Home.html

項　　目	自己評価
委員会開催数	8 回
刊行物 （シンポジウム資料等は除く）	
講習会	

催し物 （シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等）	１．情報交流シンポジウム（第 17 回） 「次世代に向けた大学キャンパスと地域の創造的再生」 参加者数　58 名
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 （当初の活動計画と得られた成果との関係）	１．当初計画した行事（シンポジウム、オーガナイズドセッション）は、予定通り実施することができ、目標を達成できた。 ２．６月に開催された International Sustainable Campus Network の年次国際シンポジウム（シンガポール）および ASSHE（Association for the Advancement of Sustainability in Higher Education）の年次大会（アメリカ・ナッシュビル）にさ参加し、研究成果を発表するとともに各国の関係者との議論とネットワークづくりを深めた。また、この ISCN 関係者との共同執筆により書籍を出版した。 ３．3WG による研究活動も役割分担をしつつ行い、それぞれで成果をだすための活動を展開している。 ４．小委員会メンバーが、文部科学省による施設系職員を対象とした研修会（全国 1 回、地域ブロック 2 回）に講師、ファシリテーターとして参画した。
委員会活動の問題点・課題	１．本小委員会は今年度が初年度であることから、体制づくり、活動方針および活動計画づくりを重視した活動をおこない、その目的は概ね達成できたと考えられる。次年度からは、より積極的な活動を行ない、これまでの研究蓄積を活かしながら、今日的な課題を検討するとともに、社会に対する発信を行いたい

＊小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。